



# 「米が原爆被害展示へ」

## ◎記事から読み取ろう

○「原爆投下の正当化論」の理由をまとめよう。



# 米が原爆被害展示へ

## 核開発地の国立歴史公園

米国内で原爆投下に関する展示を推進したマンハッタン計画開発地の米国立歴史公園が、原爆投下による人的被害の非人道的な側面を展示する方針を固めたことが13日、米内務省国立公園局への取材で分かった。広島、長崎両市の要望を踏まえたもので、具体的な内容は今後詰めるが、担当者は被害を尊重し「争いごとを触れるもたらした話している。23面に記事

### 被爆地要望、異例の対応

米国内では原爆投下について、展覧会や慰霊祭など、戦後70年以上経ち、多く中止された。投下正当化論は、米国立歴史公園の展示でも併記両市が「原爆投下の正統化」を主張が根拠、1995年「異例の対応」といえた。米政府は2015年11月、マンハッタン計画の中心地のニューメキシコ州、運管指針と基本文書は

○「核の使用による非人道的な結果」とはどのような内容ですか。

「核兵器が世界を脅かすオバマ前政権で定められた。広島、長崎の被害について、被爆地の要望が受け入れられ、原爆投下を無差別攻撃として、核兵器を非難する。被爆地の要望を受け入れられたことを評価した。原爆投下を非難する。被爆地の要望を受け入れられたことを評価した。原爆投下を非難する。被爆地の要望を受け入れられたことを評価した。

面を物語る上で非常に重要な要素で、展示の鍵となる」と話す。基本文書は、米軍などが戦争末期に計画していた日本本土上陸戦が実行されたら、最大で数百万人の犠牲が見込まれると解説してあり、原爆投下が終戦を早めたとの見方も従来通り紹介するとみられる。

# 「核廃絶につないで」

○両論併記への方針転換への経緯をまとめよう。

# 被爆者、評価と懸念

マンハッタン計画開発地の米国立歴史公園が、原爆投下に関する展示を推進したマンハッタン計画開発地の米国立歴史公園が、原爆投下による人的被害の非人道的な側面を展示する方針を固めたことが13日、米内務省国立公園局への取材で分かった。広島、長崎両市の要望を踏まえたもので、具体的な内容は今後詰めるが、担当者は被害を尊重し「争いごとを触れるもたらした話している。23面に記事

「フランスの取れた見方しさを改めて知り、米を擁護する」と広島、長崎両市に回答、国立公園に併記。定された同年11月に併記された。マンハッタン計画開発地の米国立歴史公園が、原爆投下に関する展示を推進したマンハッタン計画開発地の米国立歴史公園が、原爆投下による人的被害の非人道的な側面を展示する方針を固めたことが13日、米内務省国立公園局への取材で分かった。広島、長崎両市の要望を踏まえたもので、具体的な内容は今後詰めるが、担当者は被害を尊重し「争いごとを触れるもたらした話している。23面に記事

## ◎自分の考えをまとめよう

○このような動きに対してどのように考えますか。

背景に米世論の変化  
非政府組織「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)の広島国際連帯委員の訪米。米国内で原爆投下正当化論は根強く、人的被害は数字で語られるだけだった。国立公園の展示で被爆者の人間としての苦しみに触れることは重要だ。オバマ前大統領は「核兵器なき世界」を掲げて広島を訪問し、被爆者と向き合った。若い世代は必ずしも正当化一辺倒ではなくなっており、米国内の世論も変化している。ノーベル平和賞を受賞したICANの活動などで近年、国際的に核の非人道的性がクローズアップされ、展示方針もその流れの中にあるのではないかと、核の役割拡大を目指すトランプ政権下で方針転換される恐れがあり、注視が必要だ。